

ぶれの給はするをうへ子倫はいとかたはらいたしと覺して、あなたにわたらせ給は、へ
〔榮花物語^十朝^四縁^四〕かくて霜月に成ぬ、二年^〇寛仁大將殿^〇藤原の大^〇大原^〇脱^〇命^〇ひめ^〇ぎ^〇み^〇子^〇生^〇は^〇五^〇こ^〇ひ
め^〇ぎ^〇み^〇子^〇歡^〇は^〇三^〇にな^〇らせ^〇給^〇に^〇ければ、御はかまきせ^〇た^〇て^〇ま^〇つ^〇ら^〇せ^〇給^〇、京極殿にわたらせ給て、西
の對をいみじうまつらひせさせ給へり。

〔古今著聞集^八好^八色^八〕左大辨宰相經賴卿、さきの妻の腹に最愛の小むすめ有けるを、車にのせて行幸
を見物すとて、供奉の人の中、いづれをか殿にせんするといひて、入姿とて是はと問れば、
みなかしらをふりけるに、隆國卿のわたるを見て、是をせんといひければ、まるとしてこれに過ぎ
たる人はあらじと思ひて、聲に取てげり。

〔倭訓栞^{中編}阿^一〕あにやう 阿娘の吳音也、伊勢の俗あにやといふも、あにやうの訛成べし、よて又
娼妓をもあんにやといへり、龍圖公案に、土娼只呼娘子といへるが如し、

〔皇都午睡^{三編}上^一〕上方にて買て來るを、江戸にては買て來る、^〇中^〇糸^〇様^〇を^〇お^〇娘^〇様^〇、^〇中^〇男^〇の^〇子^〇を^〇坊
様^〇、^〇中^〇貪^〇乏^〇人^〇の^〇きた^〇な^〇口^〇に^〇娘^〇を^〇あ^〇ま^〇と、男子を娥鬼女子をめるのがき、おてんばめらう、あまッ
ちよなどとも云なり、

曹子

〔貞丈雜記^二人品^一〕一御曹司と云ふは、いまだ家督にならぬ部屋住の人を云、曹司とは、本は役人の用
部屋の事也、一かまへづ、しきりてあるを云也、部屋住の人も、座敷を言かまへしきりて、住居す
る心にて、御曹司と云也、部屋住と云ふに同じ心也、

〔源平盛衰記^二二十八^一〕頼朝義仲中惡事

木曾此事ヲ聞テ、郎等共ヲ招集テ評定アリ、^〇中^〇今^〇井^〇四^〇郎^〇兼^〇平^〇ガ^〇儀^〇ニ^〇ハ、兵衛佐殿ト終ニ御中ヨ

カ^〇ル^〇マ^〇ジ、故帶刀先生殿ヲバ、惡源太殿討給ヌ、意趣定テ御座ラント、佐殿モ思召ラン、幼キ御曹司

ヲ他所ニ奉置テ、所々ニテ思召サンモ心苦シ、平家ヲ討ント云モ、御家門人爲也、只一度ニ思召切